

ピースツーリズム推進懇談会（第5回）

平成29年（2017年）12月19日

目次

これまでの懇談会意見を踏まえた「目指す姿」と「目指す姿に向けた取組方針と取組概要」について	
1 「目指す姿」	3
2 「目指す姿に向けた取組方針と取組概要」	4
具体的な取組内容について	
1 情報発信について	
▷伝える内容	5
▷発信方法	7
▷スマートフォン等を活用した方法	9
2 来訪者を迎えるにあたっての環境づくり(ルート設定等)について	
▷ルート設定にあたっての基本的な考え方	10
▷平和に関連する場所	12
▷ルート設定にあたっての考慮すべき事項	13
▷ルート案の現地調査結果	14
▷ルート案の修正	19
3 迎える市民の積極的な関与について	
▷迎える際の対応	20
▷関与のあり方	21
ピースツーリズム推進事業の推進にあたっての配慮・対応が必要な事項	23
第5回ピースツーリズム推進懇談会の意見交換テーマ	26
次回懇談会の日程	27

これまでの懇談会意見を踏まえた「目指す姿」と「目指す姿に向けた取組方針と取組概要」について

1 「目指す姿」

(第4回懇談会での意見)

- ・「国内外の来訪者が、広島に、」に続く3項目の中に「被爆体験の継承」という言葉と「核兵器のない世界を訴える」という内容を盛り込む。
- ・市民が協力していくピースツーリズムという部分に関して、人がいないとツーリズムは成り立たない。「市民と共に」という表現がよい。

- ▷ 国内外の来訪者が、広島に、
- ・被爆前からの歴史・文化や市民生活
 - ・原爆による破壊とその後の苦難
 - ・復興に向けた市民のたゆまない努力によって築かれた今の姿
 - ・**被爆体験の継承と核兵器のない世界の実現への取組**
- に触れ、思いを馳せることができるような、丁寧な案内を提供していく。
- ▷ これにより、来訪者とこれを迎える市民の双方が平和とは何かを考え、共感し、平和への思いを共有していく。
- ▷ さらには、来訪者がその後の日々の生活の中で、核兵器廃絶・世界恒久平和の実現に向けた行動を起こすことへの動機付けに繋げる。そのために、来訪者が広島に関する情報をしっかりと受けとめ、考えられるよう、**市民と共に**ピースツーリズムを推進していく。

2 目指す姿に向けた**取組方針と取組概要**

■ **取組方針**

国内外からの来訪者に、平和への思いを共有してもらうことを目的に、そのための手段としてツーリズムを活用し、市民や事業者等とともに持続可能な取組を行う。

■ **取組概要**

(第4回懇談会での意見)

- ・情報発信について、「最終的にリアルな内容を伝えることの重要性を認識した上で、手段としてはバーチャルな方法も含めて色々なものを検討する」という表現の方がよい。
- ・はじめにリアルがあり、リアルを届けるための伴走者としてバーチャルな方法による情報発信があるという形を目指すという表現がよい。

情報発信について

- ▷まずは、外国人旅行者、修学旅行生を対象として、被爆の実相を伝え、共に考え、平和への思いを共有してもらう。また、リアルな内容を伝える重要性を基本認識として、バーチャルな方法も含めた様々な発信内容・方法とする。

来訪者を迎えるにあたっての環境づくり（ルート設定等）について

- ▷広島への理解を深めてもらうことを基本に置き、被爆前からの歴史・文化や復興してきた足跡なども理解できる場所を巡るルートとする。
- ▷その際、関連の場所を巡るだけでなく、平和について考えることができる場、休憩の場なども含め、来訪者に広島として伝えたいテーマを感じることができ、かつ、来訪者が巡りやすいルートとする。
- ▷ルートの設定にあたっては、1つのルートに限らず、伝えたいテーマ、地理的な範囲、移動手段等を考慮した複数のルートとする。

迎える市民の積極的な関与について

- ▷スマートフォン等の情報端末により、ルート案内や施設解説をするのみならず、市民と触れ合いながら巡る方策に取り組む。

具体的な取組内容について

1 情報発信について

▷ 伝える内容

- ・訪れた場所における被爆の実相のみならず、被爆前の歴史、被爆後から復興に向けて**市民**が取り組んできた様子も伝えていく。
- ・来訪者のことを知り、来訪者の視点に立って情報をきめ細やかに伝えていく。

(懇談会意見)

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・当時、市内に在住していた外国人も被爆したエピソードも加える。 ・「被爆体験」を原点とし、こんな悲惨な体験を二度と起こしてはいけないということを国内外の来訪者に伝える。 ・廃墟の中で荷車を引いてパンなどを売ったところから始まるアンデルセンや、広銀、広電など、企業の歴史と精神を伝える。 ・広島から海外へ移住した人達などから、広島への復興支援があったことを伝える。 ・情報発信する際、それに関連する情報もたくさん見られるようにする。 ・佐々木禎子などにまつわる千羽鶴の話伝える。 ・原爆が落とされた時に何が起こったのかそのまま伝える。 ・市民は、被爆前にどんな生活をしていたのか。また、被爆の状況や、どのようにして苦難を乗り越えてきたかなどを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者に対し、夜の過ごし方を提供することにより、滞在時間を延長する。 ・平和首長会議の取組をより力強いものにして、ヒロシマの発信するメッセージを平和記念資料館を訪れる来訪者に伝える。 ・来訪者はそれぞれの平和観を持っている。世界の違う平和のイメージを持っている人と、痛みや苦難を共有し、それを通して最終的に平和をつくることにつなげる。 ・相手のことを知り、相手の立場を踏まえて、伝え方を考える。 ・なぜ折り鶴が広島を象徴しているかなど、広島ではあたり前のことでも来訪者は知らないことが多い。来訪者の視点で考えて情報を発信する。 ・ホロコーストセンターが、ホロコーストの体験だけではなく、広島・長崎や、ナミビア、ルワンダの虐殺についても考え、情報伝達している姿勢を学び、世界中の苦難の中にいる人達の思いを受け止めたうえで、情報発信する。 ・若い人に対しては、映像など視覚に訴える手段によって関心を惹き、実際に来たい、実相を見たいと思わせるようにする。 ・訴求したいターゲットにあわせて、初めての来訪者向けのコンテンツ、若い人に訴求するコンテンツなどを整理する。

(ヒアリング調査)

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・原爆ドームの保存までの経緯や、原爆の子の像の建立の経緯などの情報を伝える。 ・原爆によって、いかに不条理に命が奪われたかが分かるような伝え方をする。 ・過去の真相ばかりでは、若い人には昔のこととして伝わってしまう。平和について自分とつなげて考えるような現代的な視点も加える。 ・広島復興の話はキレイ過ぎる。復興がどれだけ大変だったか、復興の中でどんな問題があったかも伝える。見事に復興したという話では、広島の被害は大したことがなかった、原爆を落としても良いということになってしまう。 ・人類史上最初の被爆地であるという実態を学ぶとともに、原爆投下の直前まで市民の暮らしがあったことを知らせる。 ・広島城の再建は、復興のシンボルとして市民の誇りであった。広島城を、武家文化や城郭建築の視点だけではなく、戦前・戦後のことや、関わった人々の歴史の事実を伝承してゆく場所としていく。 ・核兵器の脅威、戦争による市民の被害の真相、復興、そして現在の被爆者の苦悩等をしっかり伝える。 ・市がどのように平和のための取組をしてきているのかを伝える。 ・第二次世界大戦では、海外でも悲惨な状況があったので、広島がどれだけ悲惨だったということばかり説明しても、外国人と思いを共有できない。 ・短時間の滞在でもノーモアヒロシマの思いを持ってもらえればよい、来訪者数の増減には一喜一憂しないという考え方もある。 ・大久野島や海軍兵学校について、ドイツ・ニュルンベルク収容所のように、当時の様子を語り、創造的平和構築の担い手の人材育成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そこにある被爆建造物等のみに意識を向け過ぎないこと。広島街全体が被害の場所であり、様々な道路やスポットに被爆者らが伝え続けてきた被爆体験の背景があるということも伝えていくべきである。 ・昔の記憶を守りつつ、未来へ向けた平和への文化的交流などを加える。 ・被爆の惨状を伝えるのはもちろん、世界平和の創造へ向けた未来への取り組みが必要である。具体的には、文学や音楽などを振興させ“平和文化事業の交流ができる街”にする。 ・「被爆体験を伝える都市」から「平和文化のモデルとなる都市」へ移行する時期にきている。アートを用いて平和と全ての人々の幸福に力を注ぐ都市として発信する。 ・被爆後の壊滅状態からどのように中四国の産業都市として発展していったのか、復興についてのポジティブな内容での説明があるとよい。それに関連した施設や企業、工場の見学ができると、ストーリーが出来上がる。 ・外国人も原爆により亡くなっているが、そのような事柄が資料館の展示にはない。例えば、当時捕虜がいた場所はどこかなど、外国人も亡くなった人がたくさんいたことを伝えることにより、外国人にも身近に感じ、より関心を持って見てもらうことができる。 ・原爆だけでなく、世界の戦争など、色々な切り口から情報が得られるような方策も検討する。 ・広島は世界を見る窓、世界平和を国際的に考えることのできる平和拠点になるべきである。 ・核兵器の恐ろしさを伝えることが広島の役割である。これを、海外からの来訪者数の増加や、これらのニーズにどうつなげるのかの検討が必要である。 ・ネットでもたどりつかない情報を収集し、発信していく。 ・市内を歩くとき、ここが爆心地からどのくらいの距離にあるのか、理解できるような情報を加える。

▷ 発信方法

- ・来訪者の多様な興味・関心に応じた情報提供ができるようにしていく。
- ・来訪者が分かりやすいよう、情報への到達のしやすさ、イメージのしやすさを追求していく。
⇒これらの実現のために、最終的にはリアルな現地での発信を念頭に置きつつ、まずは、テーマ性を有したバーチャル面での発信方法として、スマートフォン等を活用した方法から着手していく。

(懇談会意見)

具体的な発信方法	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で広島を紹介するフリーマガジン「GET HIROSHIMA」の被爆樹木の記載を活用して地図に落とし込んでいく。 ・御幸通を含めた郷土資料館、広島城、水道資料館、江波山気象館などの職員が持つ情報を伝える。 ・被爆樹木や被爆建造物を地図に落とし込んでグーグルマッピング等により、そこに行き着くことができるようにする。 ・映像で、広島が凄まじい惨禍を受けながら、立ち直った過程を見られるようにする。 ・そこに行けば伝えたい内容が理解できるような説明板を設ける。 ・慰霊碑はまとめてマッピングするなど、情報の出し方を工夫する。 ・ある関心事を来訪者が選ぶとその人の要望に応じた情報が出てくるようなシステムを作る。 ・テーマ性を持ったバーチャルルートを作る。来訪者の関心にあわせた複数のコースを提示するなど、1枚の平面の地図に落とし込むのではなく、立体的に考える。 ・来訪者が選べる選択肢を複数用意しておく。 ・市内の観光案内所でルートを紹介する。 ・初期段階ではターゲットを絞り、ガイドによる案内を実施する。 ・広島県民文化センターなど市内中心部の既存施設での発信を強化していく。 ・市内を歩いてリアルな物や情報等に触れてもらうことが大切であり、バーチャルなものはそのための手段である。 ・ヒロシマ賞やアニメーションフェスティバルなど平和と文化の事業を通じて広島のメッセージをより強く発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被爆建造物を見るだけではなく、そこでは被爆時までどんな営みをし、8月6日に何が起こったのか、イメージできるコンテンツを作るなどの工夫が必要である。 ・そのエリアに痕跡をとどめたもの、人の行いに関するもの、まつわるストーリーに関するものなど、一つの物事・場所でも色々なインデックスを付けることにより、その中から選択できるようにする。 ・来訪者の滞在日数に応じたコースの紹介や、次回来訪時のコースを設定できるような仕組みや、情報提供を行う。 ・来訪者に対して、今回のスケジュールでは巡るのは難しい場所は、次回の再訪時に役立つようなルートを示す。 ・広島に来訪してからルートを知るのではなく、パンフレットやインターネットなどを通じて事前に知ることができるような方法も考える。 ・アート作品をたくさん広島で作ってもらう仕掛けを作り、その作品を通じて広島を発信する。 (例示:アートを通して平和を発信したい人が発表する場、研鑽する場、つくる場として、現代美術館を機能させる等)

(ヒアリング調査)

具体的な発信方法	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人には、文章表現に加えて、写真や動画配信を使用する方が理解しやすい。 ・その場所に行けば、そこで起こったストーリーを音声で聞くことができる仕組みをつくる。 ・例えば集約サイトをつくるなど、来訪者に分かりやすいように情報を一本化する。 ・SNSや携帯端末での情報発信や、ウェブ上のポータルサイトを構築することが有効である。 ・公共性の高い媒体と、SNSなどロコミが広がるような媒体の2面からの情報発信が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャルの世界では戦争の本当の恐怖は伝えられない。遺品や被爆者など実際のものと出合わせ、特に子どもたちの繊細な気持ちや感動、感受性、想像力を呼び起こす。 ・ツーリズムで感じたこと、考えたことを発信する場をつくる。 ・「伝える」動きだけでなく、「伝わるような環境」をつくる。行政側が提示するだけでなく、来訪者自身が探したり選んだりできるきっかけづくりを行う。 ・平和を愛する人びとを世界中から集めて巨大なピースフェスティバルを川を舞台に実施する。 ・8月6日に向けて「平和」への意識は高まるが、それは一時的である。継続的に「平和」について考えられる場所を設ける。 ・戦争をしている国々の様子について、来訪者(子ども)に身近に捉えてもらう工夫をする。 ・時間の経過とともに、伝えたいことが伝わりにくくなる。次世代にはどのようにしたら伝わるか、若い世代をとりまく環境や未来を見据えた方法にヒントをあわせる必要がある。例えば、建物等に映像を映し出す技術であるプロジェクションマッピングにより可視化するなど、伝わるための手段を考えるべき。

(市議会意見)

今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・72年前のことを追体験できるようにするには、説明板だけでは充分ではない。訪れる場所ごとにきちんと表示した説明板などを用意するほか、ガイドが直接説明できるような方法を検討する。

▶ スマートフォン等を活用した方法

スマートフォン等による情報発信方法についての基本的な考え方

- ・訪れた場所の被爆の実相といった中心情報に加え、関連する情報も発信する。
- ・来訪者の興味、関心及びニーズに応じて、自由にルートや目的地を選択できるようにする。
- ・ひと目でルート、目的地及び自分の位置などが把握でき、必要とする情報までの操作が容易にイメージできる画面の内容とする。
- ・来訪者が必要とする情報へ簡単に到達できる。

ルート上の場所(例: 原爆ドーム付近)に近づくと情報提供画面に誘導するメッセージを自動的にスマートフォンに配信



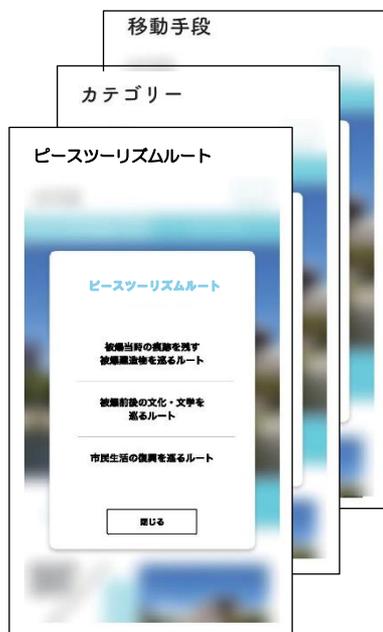
Hiroshima Free Wi-Fiを活用して情報提供画面へ誘導
※特定の条件が必要

【開発中の画面】

トップページ
(全体の画面構成)



エリア、テーマ等から興味・関心に応じて項目を選択



※画面イメージは開発中のもので確定したものではありません。
また、スマートフォンの機種等により機能が制限される場合があります。

ルート詳細ページ
全体の地図、現在地、所要時間等を表示



目的地の情報



AR(拡張現実)等を活用した情報提供のイメージ



2 来訪者を迎えるにあたっての環境づくり(ルート設定等)について

▷ ルート設定にあたっての基本的な考え方

- ・来訪者が関心のあること(被爆の実相や被爆前からの歴史・文化、復興してきた足跡など)や、滞在日数等の旅行条件に合わせて選択できるように、複数のテーマとストーリーを設定していく。
- ・その際には、来訪者が考えることができるよう、またニーズに応じて選択できるように考慮する。
- ・また、来訪者が、ルートの途中でやめたり、ルートの一部を変更できるなど、自由なルートも検討する。

(懇談会意見)

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は自分の足で歩くのは難しい。市内循環バス「めいぷる一歩」を利用する。 ・水を身近に感じることができる川や海のそばで、また緑の中で、自分の思いを解き放ち、座って静かに考える場所を設ける。 ・テーマ性を持ったバーチャルルートを作る。来訪者の関心にあわせた複数のコースを提示するなど、1枚の平面の地図に落とし込むのではなく、立体的に考える。【再掲】 ・来訪者の滞在日数に応じたコースの紹介や、次回来訪時のコースを設定できるような仕組みや、情報提供を行う。【再掲】 ・途中から始めても、途中でやめてもよいことを念頭に置き、始点と終点を決めない循環型のコースにする。 ・無限大マークのような形のルートにし、片方の輪だけを巡る場合や、両方を巡る場合など、来訪者が選択できるようにする。 ・各ルート案に重複がないように考慮する。 ・佐々木禎子のストーリーをめぐる。 ・テーマ毎にルートを設定するほか、あるエリアの中で複数のテーマに触れることができるルートも設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な観点から来広者のニーズに対応するため、自然、博物館、記念碑、体験など、自由に選択ができるような工夫をする。 ・いくつかのエリアがあり、エリアとエリアの間を線で結ぶというイメージでいく。 ・広島に住んでいる人も意外と気付いていないところを気付かせる切り口を提示する。 ・復興してきた広島足跡を実際に辿れるようなストーリーをつくる。 ・各施設について、原爆による被災状況だけでなく、歴史など様々な情報を網羅的に示し、そこに行くだけで色々なことが分かるようにする。 ・対面で、来訪者のニーズ、時間、予算等にあわせて、個別にルートを提案する。 ・自由に組み立てができるオプションを示す。 ・被爆者が避難した経路を歩くなど、人を軸にしたルートを設定する。 ・ルートを巡るとき、単に建物等を見るだけでなく、その建物等にまつわる人の物語などのストーリーがあると伝えやすい。

(ヒアリング調査)

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者は滞在時間に限りがあるため、短縮コースが必要である。 ・本通商店街は商業だけでなく、過去の広島を街を知る上で重要なポイントになる地点や、被爆の痕跡もある。 ・史跡等ばかりでなく、広島を地理的特徴であり美しさでもある川辺の魅力も伝える。ぶらりと歩ける平和で美しい場所があると、広島に対する考え方を深めることができる。 ・移動する間に、事前に次の訪問場所のガイドをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被爆した場所から安全と思われる場所へ逃げて行ったという証言をもとにした体験ができるようなコースを設ける。 ・皆実・宇品地区には、糧秣支廠、被服支廠、兵器支廠などが点在しており、郷土資料館をそれらを巡るための拠点とする。 ・こちらがルートを縛るよりも来訪者自身が数あるコンテンツの中から自由に選択しルート化できるよう、たくさんのコンテンツを提供する。 ・何を繋ぐのかという選定は重要である。被爆建造物の保存等の課題の中、解体の可能性のあるものには考慮する。 ・外国人について、事前に原爆について学ぶプログラムを受けているか、そうでないかによって、ツアーで巡る場所は変わってくる。例えば、原爆ドームしか知らない人には、他の被爆建造物の意味は分からないであろう。 ・単に気持ちが重くなるツアー内容ではなく、戦争当時や戦後の人達に起こった物語など、感動できる内容のものを伝える。

(市議会意見)

今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・被爆前に市民の日常生活があった中で、突然全く未知の事態が起き、大勢の者が生活を破壊され、その後に大変な苦難の道を歩んできた。 <p>原爆の被害の恐ろしさを、その場所に行くことによって体感し、考えることができるように設定し、遠方から旅行費用をかけて来た来訪者に、それだけの価値があったと思ってもらえるような方策を考える。</p>

▷ **平和に関連する場所**

別紙1のとおり (52箇所)

【第3回懇談会までの報道を見た各施設からの情報提供】

<p>広島市青少年センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年センターの前には、①爆心地から約370mに位置していた元広島護国神社の鳥居の台座、②北東に元中津宮の被爆した「神額」が埋め込まれた神社、③西側の旧太田川河岸堤防には被爆した柳の木がある。 ・いずれも爆心地から400m以内の貴重な資料群で、徒歩や自転車で巡回できる。
<p>饒津神社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手水鉢のほかにも、石畳や松の切り株など被爆の痕跡を残すものがある。 ・平成31年の浅野長晟公の入城400年の記念事業として、明治期の松並木の再現や遊歩道の整備などを実施する計画がある。 ・被爆前の広島歴史・文化にも触れることができる場として整備したい。

【市議会意見】

<p>平和記念公園内の寄付樹木</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平和記念公園等には国内外から届けられた寄付樹木が数多く所在する。東京オリンピック・パラリンピックを契機に多くの外国人旅行者が来訪された際に、母国の先人達が寄付した樹木の由来や今の姿に触れることで、平和への思いを共有できるように配慮する。
---------------------	---

▷ ルート設定にあたっての**考慮すべき事項**

来訪者が巡りたいポイントをおさえて快適に周遊できるよう環境等の整備を行っていく。

(懇談会意見)

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・平和に関する取組は、「被爆体験」を原点とする。 ・ルートから外れたところについても、どのようにそこに到達できるか情報提供する。 ・ルート上の代表的な場所を回ってもらい。他はバーチャルなもので提供し、後ほど情報を調べられるようにする。 ・平和関連施設だけでなく飲食店の情報なども紹介し、平和を学びながら今の広島を知ることができるものとする。 ・観光案内所を目立つ場所に多く整備する。 ・それぞれの施設等について簡単なガイドブックを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店、ホテル、市民などに花や木などの植木鉢を置いてもらう取組を進め、さらに音楽という文化的要素を加えたまちづくり「花と緑と音楽のまち広島」を進める。 ・それぞれのルートの所要時間を明示する。時間が限られている人には、短時間で各ルートの内容の一部に触れるダイジェスト版のルートを回って体験してもらうことで、また来訪し各ルートの全体を周遊したいと思ってもらう。 ・来訪者にルートを回ってもらうためには、周遊できる時間にゆとりを持たせる必要があるため、縮景園の早朝開園などの取組を推進する。また、広島に宿泊し滞在時間を伸ばすことも必要であることから、夜神楽公演などの地域文化を発信していく取組を推進する。

(ヒアリング調査)

具体的な内容	今後の対応事項
<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者は、広島に来ることがきっかけで、自分にとっての「平和」を考えたいと思っている。 ・被爆建造物は分散しているため、設定するルート外の他の重要な場所を巡ってもらう機会を逃さないようにする。 ・交通機関を自由に乗り降りできる一日乗車券を提示すると、施設に無料で入れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島へは、被爆体験を聞く人ばかりでなく来訪者たちも自分の心を癒したいと思って来る人もいる。市民は来訪者の聞き手となることも必要である。 ・平和記念資料館は、原爆の拠点施設としてもっと充実させる。また、レストハウスやおもてなしの空間を整える必要がある。平和記念公園をより居心地の良い場所にすべきである。 ・視覚障害者にはしっかりした音声情報で、聴覚障害者には目で見える情報に触れられるようにする。

(市議会意見)

今後の対応事項

- ・ルートをしっかりと検証し、来訪者に喜んでもらえるようにする。

▷ ルート案の現地調査結果

《現地調査の実施内容》

A 11月24日(金)「②被爆前・後の文化・文学を巡るルート」のうち、前半部分(めいぷる～ぷによるルート)
(広島城→ひろしま美術館→映像文化ライブラリー→エドモンド・ブランデン詩碑→西平和大橋→峠三吉詩碑→平和大橋)

B 11月28日(火)「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」、「③市民生活の復興を巡るルート」
(自転車によるルート)
(広大旧理学部校舎→郷土資料館→旧陸軍被服支廠→シダレヤナギ(鶴見橋東詰)→比治山(平和の丘))

C 11月29日(水)「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」(徒歩によるルート)
(原爆ドーム→本川小学校平和資料館→平和記念公園(旧慈仙寺墓石、レストハウス)→旧日本銀行広島支店→袋町小学校平和資料館)

D 12月1日(金)「市民生活の復興を巡るルート」のうち徒歩によるルート
(旧市民球場跡地(元カープ本拠地)→旧西国街道(本通)→広島アンデルセン→お好み村→福屋八丁堀本店→世界平和記念聖堂)

共通事項

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none"> ・各慰霊碑等の裏面には説明が書いてあることが多いので、これも見るような表示をする。英文表記なども加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各箇所での説明表示が少ない。各箇所の説明や爆心地の方向・爆心地からの距離の明示が必要である。 ・マップなどを作成する場合、爆心地からの距離を円を使って表記する。 ・見学施設の展示方法等にバラつきがあるので統一する。

個別事項

A 11月24日(金)「②被爆前・後の文化・文学を巡るルート」のうち、前半部分(めいふる～ぷによるルート)
 (広島城→ひろしま美術館→映像文化ライブラリー→エドモンド・ブランデン詩碑→西平和大橋→峠三吉詩碑→平和大橋)

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none"> ・広島城において、歩兵第十一聯隊跡、桜の池、被爆樹木(マルバヤナギ、ユーカリ等)を紹介する。 ・映像文化ライブラリー前にある、聖観音菩薩像は長崎の平和祈念像を造った北村西望の作品であり、紹介する。 ・西平和大橋北側の広島二中原爆慰霊碑を紹介する。 ・資料館本館の工事囲い部分に、耐震等の工事内容について説明表示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めいふる～ぷの広島駅のバス停が分かりにくい。 ・広島駅北口で2階からめいふる～ぷバス停に移動する際、どの階段を使えばよいか分かりにくい。 ・めいふる～ぷに乗ったまま車窓から観光する人もいるので、バス停に1周・区間の所要時間が分かるようにする。 ・各バス停に案内図を設ける。 ・平和大橋、西平和大橋にイサム・ノグチが設計したことの標記がない。

《現地調査の状況》



広島城内の被爆樹木



エドモンド・ブランデン詩碑



途中での意見交換

B 11月28日(火)「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」、「③市民生活の復興を巡るルート」
 (自転車によるルート)
 (広大旧理学部校舎→郷土資料館→旧陸軍被服支廠→シダレヤナギ(鶴見橋東詰)→比治山(平和の丘))

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none"> ・頼山陽文徳殿は、めいぶる～ぷのバス停から遠いため、自転車によるルートでまわる。 ・郷土資料館北側に糧秣支廠の煙突の基部が残されており、紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広大旧理学部校舎の説明板がない。裏側が雑草等が生えて手入れがされていない。 ・比治山展望台から市街地を望む時、周辺の樹木が視界を遮っており、剪定が必要である。

《現地調査の状況》



広大旧理学部校舎



旧広島陸軍被服支廠



比治山(平和の丘)

C 11月29日(水)「①被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート」(徒歩によるルート)

(原爆ドーム→本川小学校平和資料館→平和記念公園(旧慈仙寺墓石、レストハウス)→旧日本銀行広島支店→袋町小学校平和資料館)

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none"> ・原爆ドーム前の説明板において、ドームの屋根が銅板だったため、炸裂時の高熱により溶け、爆風が吹きぬけたことにより、倒壊を免れたという説明を加える。 ・レストハウスの地下のどの場所に生存者がいたのかなどの説明を加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原爆ドームの説明パネルが古い。また、言語数を増やした方がよい。(他の場所も含めて要検討) ・本川小学校平和資料館の展示方法の工夫が必要である。 ・レストハウス内の部屋を、原爆の子の像などを訪れるグループが使えるようにする。(他の場所も含めて要検討) ・旧日本銀行広島支店の説明板が小さく、来訪者はこれが被爆建物であることが分からない。 ・袋町小学校平和資料館のビデオ放映の字幕の文字が小さく、展示の英語表記が少ない。

《現地調査の状況》



原爆ドーム



本川小学校平和資料館(外観)



本川小学校平和資料館(内部)

D 12月1日(金)「③市民生活の復興を巡るルート」のうち徒歩によるルート

(旧市民球場跡地(元カープ本拠地)→旧西国街道(本通)→広島アンデルセン→お好み村→福屋八丁堀本店→世界平和記念聖堂)

具体的な修正事項や対応事項	今後の改善が必要な事項
<ul style="list-style-type: none"> ・旧山口銀行の被爆した壁面が、本通の建物の中に残されており、立ち寄ってもらう。 ・本通のパルコの壁面に旧キンピアホールの被爆した外壁が残されており、立ち寄ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市青少年センター敷地内の鳥居の台座の説明板に、当時の写真が表示されるとよい。 ・爆心地付近では、民間の駐車場に並ぶ車列が爆心地の説明板前をふさぐので、観光客等の安全を確保することを含めて、関係機関と協議する必要がある。

《現地調査の状況》



爆心地



旧キンピアホール外壁



世界平和記念聖堂

▷ ルート案の修正（別紙2～4）

- ① 徒歩と自転車（ピーすくる）による被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート
- ② めいふる～ふと徒歩による被爆前後の文化・文学を巡るルート
- ③ 徒歩と自転車（ピーすくる）による市民生活の復興を巡るルート

現地調査結果を踏まえ、次のとおりルート案を修正した。

- ・②で回ることとしていた頼山陽文徳殿は、被爆建造物であり、自転車の方が行きやすいため、①のルートに含む。

3 迎える市民の積極的な関与について

▷ 迎える際の対応

- ・市民や、飲食店等の来訪者と接する人達が説明、案内等ができる環境を作っていく。
- ・来訪者が、広島が平和を希求する街であると実感できるような施策を展開していく。

(懇談会意見)

具体的な内容

- ・市民一人一人が自分の言葉で広島を語れる環境をつくることが大事である。
- ・AR等によって説明するよりも、市民の言葉で説明することを検討する。
- ・シーズンに入ると、ボランティアガイドや平和記念資料館のピースボランティアといった方々の確保が難しい。例えば、ボランティアガイド受付の窓口を一本化することが、温かく迎えることにつながる。
- ・温かくおもてなしをするような意思を持った人には、例えば、意思表示のできるようなバッジを作る。来訪者がこのバッジをつけた市民に声をかけやすいマナーを徹底させる。
- ・対面で、来訪者のニーズ、時間、予算等にあわせて、個別にルートを提案するとともに、その他のお薦めルートを示して、再来訪を呼びかける。
- ・設定したルートを一緒に歩く人を募る。

(ヒアリング調査)

具体的な内容

- ・被爆者にとって体験を聞く機会を設ける。
- ・来訪者が集う飲食店等のような場所を営んでいる人達が、ヒロシマについて質問されたら答えられるようにしておく。
- ・障害のある外国人に向けた多言語でのバリアフリー情報の提供が必要である。
- ・広島への来訪者に最初に接する、空港、駅等の係員の接客対応をよりよいものにしていくことが重要である。
- ・英語以外の外国語表記・通訳ガイド育成や、ピクトグラムの充実等が必要である。

▷ 関与のあり方

・市民が来訪者と関与・交流できる場の設置や、市職員の積極的な関与などの対応を進めることにより、市全体の力を結集させていく。

(懇談会意見)

今後の対応事項

- ・平和事業は関心のある方々が実施する特別なものではなく、市民自らが案内役になり、自分たちでツアールートを設定できるなど、多くの市民が何らかの形で関与し続けることのできる方策を推進する。
- ・人とのつながりを大切にし、例えば街角で出会った来訪者に良い情報を伝えたりする市民を育成していく。
- ・「外国人のためのおもてなし講座」・外国人来訪者向け街角案内所「トラベルパルインターナショナル」の状況をフォローする。
- ・市民がめいぶる～ぶを気軽に使えるようになれば、バスの中が市民と来訪者との交流の場になる。
- ・飲食店等の民間事業者を対象とした研修プログラムをつくる。研修を受けた人がいる場所かどうかその旨を表示をする。
- ・手入れが行き届かない慰霊碑について、地域の子ども達を整備することにより、被爆の惨状などについて学ぶ。
- ・ホームステイの制度について、子どもがいる若い家族などにも登録を呼びかける。
- ・ピースボランティアや被爆体験伝承者にも協力を呼びかける。
- ・ボランティアが活動する場合、ボランティアにとっても学びにつながるなど、来訪者とボランティアの両方に利点のある方策を検討する。
- ・ピースツーリズムは、来訪者にとっては平和をテーマとした観光であるが、迎える市民にとっては平和の学びにもなり得る。教育、人材育成を意識していくとよい。
- ・ボランティアのスキルアップのための取組を行う。
- ・ピースツーリズムの推進について、広く市民に知ってもらい、協力してもらえよう、市の広報紙で広報する、ルート作成後に市民への説明会をするなど、情報発信をする。
- ・ボランティアとして関わりたい人に対し、どのようにすれば参画できるか分かりやすく伝える。
- ・ボランティアの役割を限定せず、市民からの提案も募り、様々な形でボランティアとして参画できるようにする。
- ・ピースツーリズムを学校の平和教育に導入する。
- ・市民と一緒にルートを歩く企画を実施するなどにより、ピースツーリズム推進事業の取組を市民に周知する。
- ・被爆体験証言者・伝承者の数を増やすこととともに、研修の充実などにより内容を深めることに力を入れる。
- ・行政と市民を結びつける方策を推進し、平和事業の市民の力を結集する。
- ・市職員の中で、平和行政に関心を持ち何らかの形で協力したい気持ちを持っている職員の力を借りて、ピースツーリズムの組織をサポートするチームをつくる。(市民の協力を得ることを踏まえ、市が率先して行動する)

(ヒアリング調査)

今後の対応事項

- ・市民が来訪者や研修生のホストファミリーとなることができる制度をつくる。
- ・民間レベルで交流し、市民を知ることができるような場をつくる。
- ・広島市民総ボランティア計画(市民が街角で外国人をおもてなしできるような仕組み)や平和ボランティア養成講座等を行う。
- ・「見ること、知ること、会うこと、新しい自分になること」というようなわかりやすいキャッチフレーズ(英語版も)をつくり、市民を巻き込んだ動きをつくる。
- ・来た人同士が話をできる場をつくる。さらには、その人たち同士をつなぐような人を養成する。
- ・広島在住の学生と議論をするなど、来訪者が平和についてじっくり考えることができる機会があるとよい。
- ・広島城のガイドの育成にあたって、学校教育現場において、当時の軍隊組織に関する内容が省かれている。そのためのガイド教育を充実させる。
- ・来訪者が、ガイドを見つけ申し込めるようなガイドの常駐体制を作る。
- ・海外からの平和教育旅行について、同年代の学生同士で学習し、ヒロシマのことを理解できるような仕組みを作る。

ピースツーリズム推進事業の推進にあたっての配慮・対応が必要な事項

■ 行政が所管する施設等での配慮・対応

各施設等を所管する関係部局と、本懇談会の意見交換内容を共有し、検討を進めていく。

● 配慮事項

	短期	中長期
市の関係部局	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術により平和を希求するなど、文化事業を通して平和へのメッセージを受発信する。 ・市立高校が行っている平和事業を充実させ、まとめて発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ホームページ、平和記念資料館ホームページ、広島市ホームページなどを使いやすくする工夫がある。

● 対応が必要な事項

	短期	中長期
市の関係部局	<ul style="list-style-type: none"> ・被爆の実相の情報発信のあり方を議論する。 (例示:平和記念資料館、袋町小学校、本川小学校の展示、解説方法など) ・ぴーすくるの利用方法を分かりやすくする。 ・比治山の市街地が一望できる展望台を早急に整備する。 【再掲】(樹木によって遮られ市街地が見えない) ・現代美術館の発信力を高める。また、現代美術に特化した事業だけではなく、市の施設として、多くの市民に関心を持たれるような事業も企画していくなど、文化・芸術事業のあり方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広大旧理学部は草木は伸び放題で、建物はガラスが壊れていて廃墟となっている。維持管理を徹底するとともに、早急に整備方針を決定する。 ・めいふる～ぷは「二葉の里歴史の散歩道」の一部を通行しているが、道路を整備することにより散歩道部分の通行距離を伸ばす。 ・劣化した説明板の補修、見えにくい説明板を改善するとともに、必要に応じて増設する。
他の行政機関	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人に分かりにくい歩車分離式信号への対応が必要である(歩車分離式の必要性の議論など)。 ・旧陸軍被服支廠は保存と活用内容を早急に検討し、具現化を促進する。 	—

■ 民間事業者による配慮・対応

各関係事業者と、どのように対応できるか、協議を進めていく。

● 配慮事項

短期	中長期
<ul style="list-style-type: none"> ・おりづるタワーなどの民間関係者との意見交換の場を設定する。 ・テレビ局等が所有している映像等のアーカイブをピースツーリズムに活用することの協力を得る。 ・めいぷる～ぷのルート毎の違いを外国人に分かりやすく発信する。 ・雁木タクシー、広島城遊覧船、世界遺産航路などについても一体的なPRを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食業の方々からも来訪者に情報提供してもらう。

● 対応が必要な事項

短期	中長期
<ul style="list-style-type: none"> ・めいぷる～ぷの広島城バス停で降車時に、広島城への案内表示がなく、迷う来訪者が多いので、必要な情報提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島駅の列車の到着メロディーとして、ひろしま平和の歌や広島カープの応援歌を流す。 ・広島駅で広島らしさを感じられるようにする。 (例示: 壁面を利用した平和のイメージの発信) ・広島駅を起点に、めいぷる～ぷの特定の便を「めいぷる～ぷピースバス」として新たなコース設定する。ガイドが同乗して平和関連事業などについて説明する。 ・子どもがいる家族に、異文化に触れることができる機会として声を掛け、ホームステイ受入を組織化するシステムをつくる。

■ピースツーリズム推進に向けての基本的事項

調査・情報収集を行い、基礎情報として活用していく。

● 配慮事項

短期	中長期
<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識や、広島に来られる外国人旅行者の思いを調査する。 ・既存のマップ類を調査・調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を理解できない外国人がどのようにして情報を得ているか調査する。

● 対応が必要な事項

短期	中長期
<ul style="list-style-type: none"> ・首都大学東京の渡邊准教授が広島女学院中学・高校の生徒達と一緒に作っている、バーチャルな地図の上に被爆体験を落とし込み、地図にかざすと被爆体験が読めるウェブサイトがあるので、活用する。市立高校での取組の可能性についての検討なども進める。 ・アウシュヴィッツ国立博物館の実施している平和への取組を参考にする。 ・長崎市が実施している情報発信の取組を参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピースツーリズムを持続可能な施策とするため運営組織や必要経費などのあり方を検討する。 (例示: 関与する市民の交通費等の費用負担等も含む)

■その他の対応

● 対応が必要な事項

短期	中長期
<ul style="list-style-type: none"> ・市全体で取り組む事業として横断的な連携を図れるよう、市職員一人一人の意識付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会でとりまとめた意見・方策をどのように具現化していけるのか検証できる仕組みをつくる。

第5回ピースツーリズム推進懇談会の 意見交換テーマ

- (1) 「目指す姿」と「目指す姿に向けた取組方針と取組概要」
- (2) 具体的な取組内容に係る意見・提案
 - ① 情報発信について
 - ② **来訪者を迎えるにあたっての環境づくり**（ルート設定等）について
 - ③ 迎える市民の積極的な関与について
- (3) ピースツーリズム推進**事業の推進にあたって配慮・対応が必要**
な事項
- (4) その他意見交換

次回懇談会の日程

1月下旬までに実施予定とし、

後日、事務局から日程調整を行う